

2019 年度実施概要

学校名

熊本県天草市立栖本中学校

採択活動名

テクノロジーを活用した栖本の水辺の生物調査と海を通じた地元や他地域との交流

取り組みの概要

上記テーマのもと、「水辺の生物調査を通じた地域環境の考察」という単元を設定し、活動に取り組んだ。取り掛かりを「河内川」という地域を流れる川にしたのは、この川が住民の生活用水となっているからだ。自分たちが日頃使っている川がどのような川なのか知ることは意欲を喚起する。なぜなら、川がきれいであればそれを維持する活動が、そうでなければきれいにするための新たな取組が必要となるからである。自分たちの生活と直結する川であるがゆえに、川について知ることは必要性を増すのではないかと考えた。さらに、この川は以前大雨で氾濫した歴史があり、また川の行き着く先には海(不知火海)がある。地域住民の中にはこの海に携わる仕事をされている方も多く、海は世界の海と必ず繋がっていく。地域だけの問題ではないのである。そこで、川の調査学習から、そこに繋がる山、川が流れ込む川の入り口である河口干潟へと学習の範囲を広げていった。今回指導する立場としては、一連の流れが計画にあったが、生徒にはその都度、調査結果からの考察を経て、新たな課題を見つけさせるようにした。そうすることで、常に物事に対する課題意識を持たせることができるようになってきたと考えたからである。実際には、課題は想像を超えることもあり、その追究活動には、外部との連携が不可欠であるため、天草海部やひのくにベントス研究所、国立熊本高等専門学校の方々に協力を依頼した。的確なアドバイスをいただき、学習を展開させることができたと思う。調査活動とその分析だけにとどまらず、それらの取組や分かったことを発信する場も設けたが、そこでも地域の方々に臨場感を持って知らせる手段としてVRゴーグルの活用やジオラマによる視覚的な体験を行った。ポスターセッションで自らが学んだことを相手に伝える活動は、生徒のコミュニケーション能力や表現力の向上に役立てることができたと思う。

学習のまとめとして、自分たちの学習の考察と、それによって見えてきた課題の洗い出しを行い、他校と交流することでそれを具現化させていった。人に発表する立場に立ってみて、必要性や稀薄性など、自分たちの学習の見直しができたようだ。

活動中の写真



河内川での生物調査及び水質調査





河内川河口干潟の生物調査



かっぱ祭りでの地域発信

実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

1. 水辺の生物調査を通じた地域環境の考察
2. 学習の考察と他校との交流